

関連項目：教育活動プラン④

## 異学年活動を通して思いやりを育てる

### 目的

本校は、児童は全校生で30名の小規模校です。何をやるにしても異年齢集団（全校生）でやらないとできないという現実があります。そこで、そういう縦割り活動の長所を生かして児童会を中心に全校生でいろいろな行事に取り組むことで一人一人に自立と社会性を身に付けさせたいと考えました。

### 内容

#### ● さつまいもの植え付け・収穫を幼稚園児と一緒に体験

毎年、幼稚園児と一緒にさつまいもの植え付け、水やり・草抜き、収穫を異学年集団（1グループ12人の4グループ）で行っています。グループごとに畝を決めて世話をしています。5・6年生がリーダーとなってももの苗の植え方や収穫の時の掘り方を幼稚園児にも分かるようにやさしく指導しています。収穫したさつまいもは、学校に隣接している給食場で調理してもらい、幼小合同給食の時にみんなで試食しました。



#### ● 児童会を中心に人権教育の推進

今年度は12月5日（月）～12月9日（金）を人権週間として取り組みました。人権週間には下学年・上学年に分かれて人権映画を視聴しました。下学年は「とべないホテル、ピピ」、上学年は「地球が動いた日」を視聴し、視聴したことについて各学年で話し合い、人権に関する学年のめあてや自分のめあてを考えました。



12月5日には、オールフレンズ集会（人権集会）のオープニングとして、児童会役員の進行のもと、学年のめあてと自分のめあてを発表し、取り組みへの意欲を高めました。めあては、階段踊り場に掲示し、人権週間中、意識して行動できるようにしました。

12月9日は、昼休みになかよしタイムを行い、全校生で「ドッジボール」をしました。5校時にはオールフレンズ集会「まとめの会」を行い、人権週間に学んだことや考えたこと、学年や自分のめあての反省を発表しました。また、全校生でのゲーム「バームクーヘン」をして、お互いのことを知り合いながら、交流を深めました。

#### ● 地域の人たちと一緒にするとふれあい感謝祭

ふれあい感謝祭では、児童及び園児の学習の発表と地域の人たちの特技の発表、児童・園児・一般の人の作品展とバザー、ハマチの解体ショーやAEDの使い方等のイベント、小学生児童全員によるユニセフ募金を行いました。ユニセフ募金は、発表会場で意義や方法を説明した後、バザー会場へ行き4つの異学年集団グループごとに時間を決めて募金活動をしました。低学年の児童が募金箱を持って地域の人に大きな声で募金をお願いしていたのが印象的でした。



### 成果

こうした取組を行うことで5・6年生には責任感やリーダーとしての自覚が芽生えてきました。また、仲良し班（異学年集団）で活動することで友だち同士の絆（結びつき）が強くなってきました。そういう中から思いやりやいたわりの心が育つのだと思います。